

長崎県長崎市手熊町の副助詞

愛宕 八郎康隆

I はじめに

1. 調査対象地：長崎市手熊町は、旧長崎市西彼杵郡福田村字手熊郷であって、現在長崎市に属している。市の西端部に位置し、集落は五島灘に面していて気候は比較的温暖である。生業は、自家用の米・野菜作りや、みかん作りに加えて、一方で市街地への会社勤めという兼業生活者が多い。商業・土木建築業を営むところが数軒みられる。世帯数は152、人口は485人(男218人、女267人、平成9年10月末現在)で、交通は、長崎市街地へのバス便が、日に20数便(所要時間、約30分)あり、比較的便利である。宗教は、全戸、浄土真宗である。
2. 調査年月日：1998年4月6日
3. 話者：松村鹿夫氏 昭和3年11月3日生(69歳)
4. 調査者：愛宕 八郎康隆 松村鹿夫氏宅
5. 調査方法：統一調査票による質問調査。自然傍受法の調査も生かす。
6. 表記方法：片かな(音声記号の代用)で表記する。高音部に傍線を施す。話者の説明は()で括り、調査者の解釈や注釈などは〈 〉で括る。

II 調査結果

(1) 添加・例示・提題などをあらわすもの

A. 添加《さえ・も》

1. 雨だけでなく風さえ吹いてきた。

- ① アメダケジャ ノーシ カジエマデ フィーテ キタ。／②アメダケジャ
ノーシ カジエモ フィーテ キタ。／③アメダケジャ ノーシ カジエマ
デモ フィーテ キタ。

2. 今年は豊作で、米ばかりか、麦もよくとれた。

- ① コトシャー デキドシデ コメバカリジャ ノーシ ムギモ ユー デキタ。
／②コトシャー デキドシデ コメバカリジャ ノーシ ムギマデ ユー
デキタ。(「ムギモ」より、「ムギマデ」の方が強い言い方)

B. 予想外の事実《さえ・だけ》

3. 小学生でさえ、簡単にワープロを使っている。

- ① ショーガクセーサイ カンタンニ ワープロバ ツカイヨル。／②ショーガ
クセーサイカモ カンタンニ ワープロバ ツカイヨル。(「サイ」より、「サ
イカモ」の方が強い言い方)

4. (宝くじが)当たると思っていなかっただけに嬉しい。

- タカラクジドモ アタッテ オモートラジャッター ウレシカ。〈「ダケ
ニ」はなくて、「テー」(「トニ」に出自)を用いる〉

C. 条件《さえ》

5. 暇さえあれば釣りに行っている。

○ヒマサイ アレバ ツリー イキヨッタイ。

D. 例示《でも・ほど・まで・など・やら・なり・なんて》

6. まあお茶でも飲んでください。

○マー オチャデモ ノミナーレ マー。

7. みやげにはこのまんじゅうなどどうかな。

○ミヤゲネー コン マンジュードモアー ドゲンジャロー カー。〈待遇価値が高くなると、文末詞の「カー」は、「カイワイ」になる。〉

8. 思わず跳びあがるほど嬉しかった。

○オモワズ トビアガルゴト ウレシカッタ バイ。

9. まさかあなたにまで話が行くとは思わなかった。

① マサカ オマエマデ ハナシノ イクテ オモワシヤッター。 / ② マサカ オマエマデモ ハナシノ イクテ オモワシヤッター。

10. ながるやら蹴るやらの乱暴を働いた。

○ウツタリ ケツタリ ランボーバ シタ。

11. 私になり相談してくれれば良かったのに。

○オレーナリ ソーダンシテ クレレバ ヨカッタテー。

12. 野菜なんていくらでもできる。

○ヤサイドモア イクラデモ デクッター。〈文末詞「ター」は、強調が加わると「タイレー」となる。〉

一対の語の例示《だって》

13. しょうゆだってみそだって作っていたんだ。

○ショーユデモ ミソデモ ツクイヨッタ トー。

択一《なり》

14. 私なり弟なりがお手伝いに行きます。

○オンナリ オトトナリ カシエーニ イクター。

例外でない《とて》

15. 村長とてそうするより仕方なかったんだろう。

○ソンチョーデモ ソゲンスルヨリ シカタナカッタジャロ ター。

列举《も》

16. 春らしくなって梅も桜も一度に咲いた。

○ハルラシュー ナッチ ウメモ サクラモ イッペンニ シェータ ター。

同類の暗示《も》

17. テレビもそろそろ買い換えよう。

○テレビモ ソロソロ ケーカエンバ ター。

やわらげ《でも》

18. まあお茶でも飲んでください。

○マー オチャデモ ノミナーレ。

E 包括《など》

19. 盆には子や孫などが帰ってくる。

- ① ボンニワ コドムトカ マゴトカ カエッチ クツ タイ。 / ② ボンニワ コドムノ マゴノテ カエッチ クツ タイ。

F 提題《だって》

20. ゲートボールだってできるよ。

- ゲートボールデモ デクツ サー。

話題にあげる《って》

21. なんだい、いいことって。

- ナンカー ヨカ コトッテ。

極端なものの提示《でも・くらい・すら・も》

22. そんなこと子どもにでもできるよ。

- ソゲン コタ コドミーデモ デクツ タイ。

23. 食べることにぐらい何とかしたい。

- ターグライ ドゲンカ シタカ。

24. 名前すらろくに覚えていない。

- ① ナマエサイ ロクニ オボエチョラン。 / ② ナマエサイモ ロクニ オボエ チョラン。

25. 弁当代に千円もかかった。

- ベントーダイ シェンエンモ カカッタ。

軽いものをあげる《さえ》

26. これさえあればもう大丈夫だ。

- コレサイ アレバ モー ダイジョーブ タイ。

(2)分量・程度・基準などをあらわすもの

G 分量・程度《ほど・くらい・ばかり》

27. 旅行で三日ほど家をあげた。

- リョコーン イタチ ミツカバツカリ オランヤッター。

28. 茶碗に半分くらいください。

- チャワンニ ハンブンバツカリ クンナーレー。

29. 子どもにでもわかるくらいのやさしい本だ。

- コドメーデモ ワカルグレー ヤサシカ ホン タイ。

30. 一週間ばかり留守にするので頼むよ。

- イッシューカンバツカル ルスン スツシェン タノム タイ。(目上の人に言う場合には、文末の表現は、「タノム テノワイ」となる。)

H 基準《ほど》

31. 今年の寒さは去年ほどではない。

- コトシン サムサワ キョネンノゴター ナカ ター。

I 理由《ばかり》

32. ちょっと油断したばかりにとんでもないことになった。

○チーット ユダンシタバッカリー コゲン コデー ナッチー。

J 「それにふさわしく」《だけ》

33. 苦勞しただけあって人間ができている。

○クローシタダケ ニンゲンノ デケチョル。

形式名詞的用法《なんか》

34. 毎日孫の守りやなんかで忙しい。

○メーニチ マゴン モリナンカデ イソガシカ。

「それこそ」《こそ》

35. それこそバケツをひつくりかえしたような大雨だ。

○ソルコソ バケツバ フックルカエシタゴタル ウーアメ ター。

「ばかりか」《ばかり》

36. 父ばかりか母もスポーツ好きだ。

○トッタンバッカリジャ ナカー カーサンマデ ウンドーノ シーチョッ トー。

K 今にも行われる《ばかり》

37. もう食べるばかりにしてある。

○モー クーバッカリ シチョッター。

動作の完了直後《ばかり》

38. 今、仕事から帰ったばかりだ。

○イマ シゴトカラ カエッタバッカッ ター。

基準《まで》

39. 駅までもうちよっとだ。

○エキマデ マチット タイ。

L 等量の反復《ずつ》

40. 一人ずつ呼んで話をした。

○フトーッズツ ユージ ハナシバ シタ。

M 等量の配分《ずつ》

41. 一人に二個ずつみかんをやる。

○フトーリ フタツズツ ミカンバ ヤルー。

(3)限定・限界などをあらわすもの

N 限定《しか・だけ・ばかり・きり》

42. 酒はたまにしか飲まない。

○サケワ タマニシカ ノマン。

43. 今朝は寝坊してパンだけ食べてきた。

○ケサワ アサネシチー パンダケ クーチ キター。

44. そんなに勉強ばかりしていると体に毒だよ。

○ソゲン ベンキョーバッカル シチョレバ カラデー ドク バイ。

45. うちの田が残っているきりで、よそは全部終わった。《田植のこと》

○イエ[je]ノ タバッカリ ノコッチョルバッカッデ ヨソワ ソーョー スンジ

ヨッター。

○ 強調《しか・こそ》

46. もうこれだけしかないよ。

○モー コゲシコシカ ナカ バイ。

47. 今年こそいい年にしたい。

○コトシコソ ヨカ トシー シタカ。

P 限界《だけ・まで》

48. これだけ言っても分からないのか。

○コゲシコ ユーテモ ワカラン トカー。

49. 二千円くらいまでなら何とかなる。

○ニシェンエングレーマデナロ ナントカ ナル。

(4) 陳述的なもの

Q 「一ば一だけ」《だけ》

50. 肥料をやればやるだけ良く育つ。

○ヒリヨーバ ヤレバ ヤッダケ ユー ナル。

「假定形・ば・こそ」《こそ》

51. 心配すればこそ言うんだ。

○シンパイ スッセンコソ ユー トタイレ。

「こそ・假定形」《こそ》

52. 彼は文句こそ言え、人の言うことなど聞かない。

① アレ モンクコソ ユーバチカー フトン ユー コトドモアー キカン。/②
アレ モンクコソ ユーバチカー フトン ユー コトドモアー イッチョン
キカン。(②は強調表現)

53. 「でこそあれ」《コサレなども》という言い方はありますか。

(「コソアレ」、「コサレ」などの言い方はしない。通常、○クチデコソ イワンバチ
カー ココロン ナゲージャ ドゲン オモートットジャロー カー。)

「未然形・ば・こそ」《こそ》

54. 押ししても引いても動かばこそ。

○オシタッテ ヒータッテ ビクトモ シェン ザイ。(「動かばこそ」に適合する
表現は見当たらない)

「一こそ」《こそ》

55. 失礼なことを言わないでこそ。

○シツレーカ コツバ クチンサキデコソ イワンバチカー。

「一こそーが」《こそ》

56. 今でこそ家から出ないが、昔はよく出歩いていた。

○イマコソ ワガエカラ デンバチカ マエワ ユー デチ サルキヨッタ ター。

「一ば一ほど」《ほど》

57. 働けば働くほどもうかる。

○キバレバ キバツタシコ モーカッ タイ。

R 打消しとの呼応《まで》

58. 村長に聞くまでもないことだ。

○ソynchョーニ キクマデモ ナカ ター。

否定との呼応(それさえもない)《も》

59. 朝から忙しくて昼飯も食えない。

○アサカラ イソガシューシ ヒルメシモ クイダサン。

否定的取り上げ《など》

60. こんなものなどいくらでもあるよ。

○コゲン モナ イクラデモ アツタイ。

全面否定《だって》

61. 誰だってそんなことを言われたら怒るよ。

○ダツデモ ソゲン コトバ イワレレバ ハラカク バイ。

S 次の動作が不可能《きり》

62. 10年前に故郷を離れたきり一度も帰っていない。

○ジューネンマエ ワガエバ デタキリ イッカイモ カエツチョラン。

(5)モダリティー的なもの

T 不確かな気持ち《やら・か》

63. いつのまにやら眠ってしまった。

○イツンヤメー ネムッチモータ。

64. 何のことか分からない。

○ナンノ コトカ ワカラン。

推定《か》

65. 後で遊びに行くかもしれない。

○アトカラ アソビゲー イクカモ シレン。

どちらか分からない《やら》

66. 来るのやら来ないのやらよく分からない。

○クツトジャイロ コントジャイロ ユー ワカラン。

はっきり言わない《やら》

67. どこやらへ引っ越したそうだ。

○ドケージャイロー ナワツタツチュー ター。

U 非難《たら・てば》

68. お父さんたら今日も遅いのね。

○トツタンワ マタ キューモ オスカ ナー。

69. お父さんてば、子どものようなことを言って。

○トツタンワ マタ コドンゴトアル コトバ ユーチ。

III 総括

1. 調査項目69のうち、およそ三分の一にあたる25項目(項目番号

5.6.9.11.14.16.17.18.22.23.25.26.34.35.39.40.41.42.43.47.50.59.62.64.65 など)が、
掲出の事象形(共通語形)と一致を見せている。

2. (2)分量・程度・基準などをあらわすものの分野で設定されている調査項目は15項目(27-41)であるが、それらのうち、27.28.30.32.36.37.38 など半数に「バッカリ」が用いられており、(3)限定・限界などをあらわすものの44.45 の限定の表現でも「バッカリ」が用いられていて、当方言での「バッカリ」の活躍が目をひく。
3. 「バッカリ」について注目されるのは「デモ」の活躍で、それを調査項目6.13.18.20.22.61 に見ることができる。ちなみに、長崎市域のほとんどの地域では、「ナンデン カンデン ヨカ。」(何でもかんでも構わない。)のように、「デモ」は「デン」と撥音化を見せるが、当方言では撥音化を見せないのが、一特色とされる。
4. 当方言の副助詞総体の中で、累加・複合形の、一連の副助詞(65「カモ」、24「サイモ」、3「サイカモ」、58「マデモ」、9「ニマデ」、「ニマデモ」、49「グレーマデ」、34「ナンカデ」、46「シコシカ」、51「センコソ」など)の活躍が注目される。
5. 当方言にあってはも分量・程度をあらわす「バッカリ」と「グレー」との用法差はなく、27での「ミッカバッカリ」は「ミッカグレー」とも表現し、28での「ハンブンバッカリ」は「ハンブングレー」とも表現すると当地人は内省する。
6. 上述の記述に漏れた、特徴的な副助詞として、「トシナガラ」をここに補記する。

○アンヒター シーチョットシナガラ サムカッター ツリー イキヨル バイ。

(あの人は好きもいいところ寒いのに釣りに行っているんです。)

調査の範囲では、「トシナガラ」に前接するのは、「好き」「好いている」などに限定されており、いわば慣用的な表現になっている。

(あたご はちろうやすたか 活水女子大学)